

第180回一関市教育委員会定例会 会議録

1 開催日時

開会 平成30年5月29日（火）午後2時00分

閉会 平成30年5月29日（火）午後3時24分

2 会議の場所

議会第2委員会室

3 出席者

教育長 小菅正晴

委員 千葉和夫

委員 小野寺眞澄

委員 佐藤一伯

委員 伊藤一志

4 会議に出席した関係者及び職員

教育部長	千葉敏紀
一関図書館長	千葉秀一
教育部次長兼学校教育課長	小山祐二
教育部次長兼文化財課長兼骨寺荘園室長	佐藤武生
教育総務課長	中田善久
いきがいつくり課長	伊東吉光
教育総務課長補佐兼庶務係長	千葉由紀（記録）

5 議題及び議決事項

- (1) 議案第10号 一関市社会教育委員の委嘱について（可決）
- (2) 協議第3号 一関市民俗資料館条例の制定について（了承）

6 報告

- (1) 行事報告及び6月行事予定について（資料No.1）
- (2) 第70回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会について（資料No.2）

7 その他

(1) 平成30年度学校教育行政の重点について（学力向上）

（資料No.3）

8 会議の議事

○教育長 定足数に達しておりますので、ただいまから第 180 回一関市教育委員会定例会を始めたいと思います。

よろしく申し上げます。

今日は議事が二つほどあります。

議案第10号 一関市社会教育委員の委嘱について

○教育長 議事日程第 1、議案第10号、一関市社会教育委員の委嘱について、事務局よろしく申し上げます。

○いきがづくり課長 それではご説明を申し上げます。

議案第 10 号、一関市社会教育委員の委嘱に関し議決を求めることについてでございます。

（説明）

○教育長 ただいま提案のありました社会教育委員の委嘱について、何かご質問、ご意見等よろしく申し上げます。

○千葉委員 1年間に何回くらいこの委員の会議を持たれるのでしょうか。

○いきがづくり課長 年間に3回の予定でございます。

○教育長 その他、いかがでしょうか。

○小野寺委員 一番若い方で何歳の方でしょうか。

○いきがづくり課長 41歳の男性が最年少でございますし、その次に若い方は、44歳の女性の方ということになってございます。

○小野寺委員 ありがとうございます。

○教育長 その他、いかがでしょうか。

私からですが、社会教育委員は、どういう役割を担っているのか、その辺について、お願いします。

○いきがづくり課長 社会教育法の規定によりますと、社会教育部門に関して教育委員会に助言をすることが職務となっており、社会教育に関する諸計画を立案すること、会議を開き教育委員会の諮問に応じて、これに対し意見を述べること、更にその職務を行うために必要な研究調査を行うことということになっております。

当市の場合は、毎年度の事業計画、補助金の交付に関するご意見を頂戴するといったよ

うな事柄を年3回でお願いをしているところです。

○教育長 議決をする機関ではないということですね。

あくまで、社会教育についてご意見をいただく機会を年3回求めると。

色んなジャンルからの方々が集まってきて、ご意見をいただく機会になっているということでもよろしいですね。

○いきがづくり課長 そのとおりでございます。

○教育長 その他、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

ちなみに教育委員会議は、教育委員会の最高の議決機関でありますけれども、この社会教育委員につきましては、教育委員会とは別に社会教育について、ご意見等をいただく機会ではありますが、現在、社会教育については、市長部局に補助執行という形で具体的な仕事をお願いしてあります。

法律上、社会教育は教育委員会の所掌事項ですから、最終的には教育委員会の下部機関でありますけれども、実際の大きな部分は市長部局のまちづくり推進部というところで執行しているという形になります。

ただし、この社会教育委員が出席する3回の会議には、教育委員会の事務局として、教育長として私が毎回出席しております。

そこで色々なご意見をいただいたり、聞いたりしながら進めているところであります。

では、これについてよろしいでしょうか。

ご質問、ご意見等ありませんか。

よろしいですか。

それでは、この社会教育委員の委嘱について、議決を求めたいと思います。

ご異議ありませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 それでは、議案のとおり議決したいと思います。

よろしく願いいたします。

協議第3号 一関市民俗資料館条例の制定について

○教育長 それでは議事日程第2、協議第3号、一関市民俗資料館条例の制定について、事務局よろしく願いします。

○文化財課長 一関市民俗資料館条例の制定について、市長に申し入れるための協議をお願いいたします。

(説明)

○教育長 これについてご質問等、お願いします。

○伊藤委員 建物のご説明はいただいたのですが、例えば、私がここに何回かお邪魔したときに車の駐車場が 20 台くらいしか駐められないような状況の中で、運営するときに支障がないのかなというのが一つ。

隣に体育館がありますが、ここも民俗資料館が管理するのか。

その辺、お願いします。

○文化財課長 現状では前のおりの駐車場になっております。

将来的にはプールを壊して、駐車場になると伺っておりますので、徐々にそれは解消されると考えております。

特に利用といたしましては、小学校の社会科見学などを想定すれば、マイクロバスですとかスクールバスの利用が考えられるかなと思っております。

体育館につきましては、市民センターの附属体育館となります。

○千葉委員 第3条、入館の許可のところ、市長の許可を受けなければならないとなっておりますが、これは前もって許可証が必要なのか、当日行って入ることは可能なのかどうなのかというのが一点。

もう一点、事務室とあるが常駐の担当者を置くのかどうかを教えてください。

○文化財課長 条例の第3条ですが、これは条例で入館することを許可する規定を設けておりますけれども、実際の扱いとしては1階の市民センターの窓口においてになって、どうぞというのが実質的な許可になるということでございますので、前もってということではございません。無料ということもございます。

2階に事務室というスペースを設けております。

職員は開館をするため、説明をするために開館当初は、4月に芦東山記念館に配属になりました学芸員がおりますけれども、市民の民俗資料館の立上げ、運営が始まってから当初は、主にその学芸員が1階の市民センターの事務室に同居する形で通常は居るということをご想定しております。

1人では開館に対応できないので、臨時の職員も考えております。

これも基本的には1階の市民センターの事務室に同居させていただく。

2階にも事務室というスペースがありますが、2階に団体など見学の方がいらした場合には職員がいる場所として、確保したスペースでございます。

○教育長 その他、いかがでしょうか。

○佐藤委員 ここで収蔵、展示する資料は、基本的には国や県、市の指定文化財というのは今のところはないと思われるが、今後収蔵する資料の中で希少的価値のあるものが出てきた場合に、収蔵、展示に条件のあるものが出てくるかもしれない。

現状において、その辺りはどのように進んでいるのか。

○文化財課長 いわゆる文化財に指定するような有形文化財等については、ここでの展示は想定しておりません。

できれば、子どもたちが触れる、体験するようなことを主な目的にしたいと思っておりますので、自由に触れられないような文化財として指定されるような物品については考えていないところでございます。

○教育長 よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○教育長 その他、いかがでしょうか。

私のほうからですが、料金は無料ということですが、これは規則で決めているのかどうなのかというのが一つ。

もう一つは民俗資料等の公開施設は条例なので議会で可決し、それに基づいて行うことになりますが、管理、所属は教育委員会なのかどうなのか。

その確認をお願いします。

○文化財課長 無料という規定ですが、料金をとらないので無料という規定の項目は特に設けておりません。

お金をいただくということであれば、規定を設けることになると考えております。

○教育長 属するのは、どこに。

○文化財課長 教育委員会です。

○教育長 教育委員会ですね。

もう一つ、細かい話ですが、図面の中に養蚕染織の部分がありますけども、これは具体的にどのような展示をイメージしているのか。

○文化財課長 イメージとしては、今のところ突き当りの一番奥に機織りがあると思うのですが、繭を作る箱ですとか、そのような展示になるかと思えます。

A3判の絵で突き当りのところに、機織りのようなものを置くようにイメージしております。

○教育長 これで繭から取った絹を織るというイメージの場所。

○文化財課長 どこまで深く展示できるかというのは、今検討中です。

○教育長 養蚕のことにこだわっている訳ではないのですが、市内の弥栄小学校で平成ひと桁から20数年養蚕について学習していて、去年、全国の蚕糸会から全国表彰を頂いたんです。

弥栄でさえ、今農家は2軒しかないのですが、岩手県全体で養蚕がものすごい産地で、当時の明治期の日本を支えた産業でもあると、今はほとんどそれがなくなってしまって、

見たこともない子どもたちが多いので、民俗資料館というのは、どこに行っても同じだとハッキリ言って魅力がないというか、特徴になっている部分をクローズアップしていくと良いかなと思ったので、蚕とか繭については、当地方の農家に残っているところが沢山あると思うので、そういう部分をここに行くで見られるとか、体験までは難しいと思いますが、見られるようにしていただくと非常に良いのかなと思いましたので、その発言をしました。

ちなみに全部の事業費というか、整備費用というのはいくらでしたか。

○文化財課長 2階部分につきましては、工事費等全体で約1億円。

○教育長 1億、2階だけで。

○文化財課長 はい。そうです。

○教育長 1億の中で、浄化槽等でいくら使ったのでしょうか。

○文化財課長 設備工事等の中に入っているの、浄化槽だけで2千数百万円。

○教育長 展示に要した額は5,000万円以上投入していると。

○文化財課長 展示自体にはそんなに入っていないと思います。

○教育長 この間、千葉委員さんと盛岡の縄文の施設に行ってみました。

そこはかなり大きな部分でもありますが、先人記念館の近くで、費用として大体6億数千万円かけているそうです。

宮古の縄文関係の崎山の辺りのは十数億かけています。

民俗資料館は額的にはスケールは小さいです。

ただ、この魅力は常駐できる学芸員が1人当面、常にいる。それに非常勤がいると。

芦東山が非常に近くにあるという部分のメリットはすごくあると思うので、一気に立派なのができるというイメージではないでしょうけども、徐々に特徴のあるところを膨らませていただければ、愛される施設になるのではないかなというふうに思ったものですから、ぜひ長い目で造っていただければなというふうに思っております。

○文化財課長 施設自体、博物館などで展示そのものにお金をかけているというのがありますが、そのような施設とまではいかない施設になります。

市民の方を市民学芸員ということで募集をして、29年度は7回ほど講座ですとか勉強をしていただきました。

それから30年度に入りまして、展示の準備のお手伝いですとか、基本的な地域の歴史を皆さんで調べましょうとか、子どもたちの体験のプログラムを一緒に考えてみましょうというようなことを、この間、第1回目をしたところです。

オープンに向けて、市民の方のご協力を受けながら、オープン後もお手伝いしていただくというようなことは考えています。

○教育長 協働で造る施設のようなイメージですね。

この市民学芸員というのは、色々なところでやられているのですか。

○文化財課長 よくあるようです。

実際に農具の体験ですとか、火起こしだとか、藁を使って何か作る時などに子どもたちに色々教えるのをお手伝いいただくということがあるようでございます。

○教育長 よろしいでしょうか。

○千葉委員 市民学芸員を29年度に講座を開いたりして、その中で色々勉強してもらっている訳ですね。何人くらいと言いましたか。

○文化財課長 その中で今後もお手伝いしていただけるかアンケートをして、今のところ20人ほどが、展示のお手伝いや、体験のプログラムのお手伝いといった本人のご希望によって、班分けをしながら、その20人の中でやっていければと考えております。

随時、新しい方は歓迎します。

○千葉委員 すると、当然のように常駐はできない訳だから、前もって勉強に行きますから、農具の体験をやりたいと話があった時に、呼んでやってもらうという格好になるわけですね。

○文化財課長 1人、2人の方は対応できる訳ですが、団体の場合にはお手伝いがあるとよろしいかなというふうに考えております。

○千葉委員 わかりました。

○教育長 他にいかがでしょうか。

ご意見も、もしあれば、ご要望等も。

今度の6月の市議会に条例案として出すわけですね。

○文化財課長 はい。

○教育長 要望ですが、名称案は一関市民俗資料館であります。いたって平凡な名前ですが、少し増加の傾向が見えた時には是非、愛称なども考えていただければいいかなと思います。

では、よろしいでしょうか。

この部分につきましては、これで終わります。

これは協議ですから、議決ということではありません。

ご意見をいただくということで、よろしいですね。

それでは、以上で2番の議事は終了いたします。

○いきがづくり課長 すみません、発言の訂正を1点。

○教育長 では、訂正をお願いします。

○いきがづくり課長 社会教育委員の委嘱の際に、小野寺委員さんからご質問ありま

した年齢のこととございます。

30代の委員さんが1人いらっしゃいまして、37歳の女性の方が最年少、その次が41歳の男性、44歳の女性ということになります。

大変、失礼いたしました。訂正いたします。

○教育長 ありがとうございます。

それでは、議事日程第2の議事は以上で終了といたします。

報告(1) 行事報告及び6月行事予定について

○教育長 3番の報告に入ります。

括弧1、行事報告及び6月行事予定について、私からお話しさせていただきます。

1ページから、お願いいたします。

前回、4月25日が教育委員定例会でしたので、その後今日までのところで、主なところをお話しさせていただきます。

第5週、4月26日、県の教育委員会と市町村教育委員会との意見交換会がありました。

県の教育委員会の平成30年の方針等を聞きながら、その後に働き方改革等について、雫石町、紫波町から事例の発表があって意見交換をしたところでもあります。

年2回の意見交換会の1回目でありました。

4月29日、岩手県南・宮城県北神楽大会が厳美中学校の体育館で行われました。

私も神楽の関係で、毎年見学に行かせていただいております。

10団体が発表いたしまして、一関から七つ、宮城県北から三つの団体が出ました。

いわゆる、南部神楽が盛んな地域の県をまたいで発表する機会でありました。

今回特徴的だったのは、トップバッターとして出たのが、本寺中学校の卒業生による鶏舞を愛する会という独自の会が昨年度にできまして、小学校、中学校が閉校することと、本寺の地域の鶏舞が廃れてしまうのではないかと、自分たちで繋ぎたいということで、本寺地区の大人の方々が会を発足しまして、現在色々なところで発表しているところでもあります。今回はトップバッターとして、この団体が発表したところでありました。非常に素晴らしいなと思ったところです。

ちなみに一昨日も本寺地区での田植えの行事がありまして、毎回本寺地区の田んぼに市民やオーナーが集まってやっているのですが、そこにも鶏舞を愛する会の方々に鶏舞をしていただきました。本当に素晴らしい立上げだったなと思っております。

第7週、5月9日、第1回一関市就学支援委員会がありました。

就学支援というのは、子どもたちが最も良い教育環境、その子に合う教育環境ということで、特別支援学級が合うとか、特別支援学校に行ったほうが良いとか、そういった部分

の判断をする資料を作る部分が就学支援委員会であります。

第1回目の方針等を確認する回でありましたが、この機会ですから、お話をさせていただきます。

市内の子どもたちは現在、小中学生で8,350人です。

去年より246人減少しております。

特別支援学級に入っている子どもは321人です。

これは率にすると3.84パーセントです。

去年よりも19人増えております。

児童生徒数が246人減って、特別支援学級に入っている子どもが19人増えているということで、数的には3.84パーセントで非常に多い数であります。

これを良いことだとするのか、あるいは課題だとするのかは、見方は様々あると思いますが、いずれ一関市の就学支援は非常に丁寧にやっているという部分です。

ただ、全県の特別支援学級に入っている子どもの割合は、平成29年が、2.3パーセントです。

一関の場合は3.84パーセントなので、1パーセント以上多い状況であります。

一関の小中学生全部で8,350人ですから、その内の1パーセントというのは、大体80人くらい。

1パーセント以上多いということは、80人から100人くらい他の市に比べて、一関の場合には多いということになります。

どういうふうに今後、就学支援の判断を持っていくかというのは、一つの課題でもあるかなというふうに思っております。

ちなみに特別支援学級は市内に95学級ありまして、全部の学級数の占める割合は22パーセント。

つまり5つに1つ以上、特別支援学級という状況になっているところであります。

次2ページに行きます。

第8週、全国の大会につきましては、この後お話しさせていただきます。

第9週、5月22日、花泉地域統合小学校候補地に係る打合せというふうを書いてありまして、内部の打合せでありますけれども、何回か確認しながら進めておりました。

次回の教育委員会議の時に報告させていただきますけれども、花泉の統合小学校の場所につきましては、現在、土地改良区との話し合いを継続しているところでありまして、土地改良区から用水とか排水についての部分の課題を是非クリアしていただきたいと要望を受けながら、花泉支所が中心になって今盛んに交渉とかを行っているところであります。

それが済んでから初めて地主との契約に入りますので、土地改良区との話し合いも現在、

進行中ということでもあります。

やはり課題はいくつかありまして、大水が出た時に学校がそこにあることによって、排水路に水が流れて下の方の金流川と合流する辺りが冠水する状態が広がるのではと、懸念も示されていますので、何とか解消できないかと、現在、検討を進めているところでもあります。

次回の教育委員会議では、もう少しそこについて、話し合いもある程度進むと思いますので、報告したいなと思っております。

同じ22日、県南教育事務所管内小中学校長研修講座がありました。

これは年1回、県の方針とか、人事とか指導関係とか、教育長講話を聞く機会を持っていまして、2日間にわたって行われたところでもあります。

今回は特に教員の多忙化解消について、協議や講義が行われたところでもあります。

同じ週の5月24日、岩手県市町村教育委員会協議会定期総会が盛岡市でありました。

これについては、私と千葉委員が代表で参加させていただきました。

今回までは旧制度で進行している教育委員会もあったものですから、教育委員長と教育長が出席するところもありましたが、この形での協議会の総会は今回が最後ということになります。

次回からは、教育委員会協議会の組織は教育長部会と教育委員部会の大きく二つの部会をもって今後進行するという事に次年度以降はなりそうでもあります。

教育委員部会の中には、県内132名の教育委員さんが入っていますので、研修会等は教育委員さん全員が対象の研修会等を年1回設定する形で行う予定だというお話も受けたところでもあります。

一泊二日だったのですが、2日目は盛岡の遺跡の学び館に、縄文の遺跡等の展示を見ってきましたし、厨川小学校で小学校の英語についても学んできたところでもあります。

ちなみに、ここで報告のあった東北六県教育委員総会等研修会について、昨年度は秋田市であり、皆さんに行っていただきましたが、今年度は7月12日木曜日と7月13日金曜日、山形市で行われる予定ですので、委員さん方には、できるだけ予定を空けておいていただきたいと思っております。予定では車で行きたいというふうに考えているところです。

行った帰りにどこ学校もしくは施設等を見学してきたいと思っておりますので、参加について、今年度も是非、よろしくお願ひします。

第10週、29日、本日ではありますが、幼・小・中・高・特・高専・大、学校運営推進協議会運営委員会がありました。

これは7人の運営委員、幼稚園から大学までの校長先生方に集まっていたいて、市の教育、色んなジャンルの色んな校種の校長さん方が集まりまして、一関の教育について情

報交換するという組織であります。

今年は二つ大きなところを予定していきまして、7月10日に修紅を訪問しまして、修紅短大の授業と修紅のこども園の幼児教育を見学する予定であります。また、12月18日はベリーノで研修会が行われる予定であります。秋田市の大森山動物園の園長の小松守さんに来ていただいて、動物の愛情とか子育てについてお話していただく予定です。

この小松さんは、去年、秋田県で委員さん方が研修会で聞いた方、スライド等を使って動物園の様子を話した方、あの方に今年度内々にお問い合わせしまして、今年の12月に一関に来ていただいて、お話していただく予定であります。

よろしければ、聞いていただければありがたいと思います。

行事の報告につきましては以上です。

それでは、事務局から、今後の予定につきましてお願いします。

○教育総務課長 それでは、私から6月の教育長の日程についてご説明申し上げます。

(説明)

○教育長 それでは、報告については、何かご質問ありますか。

よろしいですか。

それでは、今後の予定の部分で最初に教育委員会議、6月26日火曜日、午後2時からということで提案がありましたが、その日でよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○教育長 それでは、よろしく願いいたします。

同じ週ですが6月29日金曜日、午後の1時半から総合教育会議。

市長、それから教育委員で行う会議であります。1時半からの予定ですが、ここについてもよろしいでしょうか。

是非、日程確保しておいていただきたいというふうに思います。

テーマ等については、後でこちらから連絡させていただきます。

では、その他の予定についてはいかがでしょうか。

よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○教育長 それでは、報告についての括弧1については終了させていただきます。

報告(2) 第70回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会について

○教育長 括弧2、第70回全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会一関大会について、私から報告をさせていただきます。

資料はA3判の資料でお話をさせていただきます。

全国の大会、ご協力ありがとうございました。

先々週、5月17、18日と行われましたので、簡単に報告をさせていただきます。

この資料は前にここで紹介した資料に、結果等若干数字を変えた部分がありますが、これで説明させていただきます。

右上の1番のところに書いてありますように、加盟都市802の内、参加が534人でありました。

これは4月27日現在の数字であります、内、教育長が大体500人くらい一関のほうにおいでいただいたところであります。

大会の前日、5月16日には理事会、情報交換会がありましたので、ここの中では、私のつたない歓迎の謡いなどもやりながら、全国の教育長さんの理事の方々に楽しんでいただいたところです。

アトラクションでは、中里の鶏舞踊り隊、地域の方に一生懸命やっていただきました。

小学生も出て、非常に全国の方に楽しんでいただきました。

それから、一関祝い餅つき振舞隊にも餅つきを実演していただきまして、その中で果報もち、果報だんごも紹介していただきまして、空飛ぶだんごで、だんごを景品としてやったところ、大変喜ばれたところでもあります。

尚、その次に書いていますが、県内の教育長からそれぞれ地酒を2本ずつ持ち寄りましたので、全部で28本のお酒で歓迎したところで、非常に岩手の酒は美味しいなど話しされました。

5月17日、大会の部分です。

開会式には県知事にもおいでいただきおごそかに行われたところですが、司会は藤野静枝さんにやっていただきました。市の社会教育委員の方であります。

腹話術でダイちゃんと一緒に、締めるところはダイちゃんを除いて、合間を縫ってダイちゃんと一緒に腹話術で進行していただきました。

開会式については、教育委員さん皆さんにご案内し、おいでいただいた方もいます。ありがとうございました。

司会の藤野さんは非常に上手で、ダイちゃんも含めて、全国の教育長さんから笑いも取りながら、ちょっと失礼寸前のところで笑わせながら、全国の教育長さんを手玉に取るような形で進行していただいて、大変な人気ぶりでありました。

昼食休憩の時には大ホールでILCの映像を10分間ほど流しました。

それから、震災復興写真展ということで、図書館のほうで陸前高田、大船渡、釜石、宮古から10枚ずつの被災の時の、あるいは復興の写真を提供いただきまして、1週間展示したところでもあります。

図書館を同時に見ていただくいい機会になったなと思います。

午後には、部会でそれぞれ東北の教育長さん方が発表する機会がありまして、岩手県からは陸前高田市の教育長が、学校教育の中で防災教育ということについて、お話をいただいて、非常に考えさせられる感動的なお話でありました。

夕方ですが、アトラクションで3つの団体に合わせて45分の発表をしていただきました。

一関中学校の特設合唱部は、宮沢賢治の星めぐりの歌から、暗いところから緞帳がオープンになりまして、ペンライトを持ちながら、星のイメージを持たせて、非常にいい発表でありました。

真ん中にコスモス舞踊研究所というのは、小学生、中学生の民間の団体ですが、震災から復興のイメージのダンスを発表していただきまして、これまた素晴らしい発表でありました。

そして、締めは北上湘南高校の鬼剣舞で、見事なピタリ息の合った迫力のある演武でありました。

この3つを藤野さんが上手に繋ぎながら、やったために、アトラクションについては、どの教育長も席を立つことなく、みんなから感動したということを知っています。

この日はこれで終わったのですが、帰りには一関中学校の特設合唱部が文化センターの中ホールに上る階段のところで合唱をして見送り、よく響くようなところでもありましたし、非常に感動的な場面で、全国の教育長さん方も足を止めて見入っていただいたところでした。

なかなか帰れなくなったというところがありましたけども、非常に評価の高かったアトラクションでありました。

2日目は、分野別研究発表などありまして閉会になり、午後は視察研修ということでありましたが、この2日間とも岩手県は雨で、雨の中の大会となったわけですが、たまたまですけども1日目の夕方、2日目の午後も雨が殆ど上がった状態で、県全体は雨の中、雨に降られずにできた研修会でありました。

ただ、狛鼻溪は雨のために舟下りができなくなり、急遽、博物館に研修場所を変更しました。

しかしながら、博物館では、一関の先人、蘭学とか言海、和算、刀剣など急遽、学芸員に説明していただき、全国から来た方々には新鮮なようで、12万の都市でああいう文化のものを持っているのはすごいと、施設についても随分驚かれました。

毎年いくらかかっているのか、学芸員は何人いるのか、そういった視点の質問もあつたりして、非常に教育長さん方に参考になったようであります。

私も聞きながら、一関市はこれくらいの人口で文化的な部分があるというのが、お世辞ではなく、外から来る教育長さん方には驚きだったようであります。

それだけ文化資源というのが一関はすごいのだと、この話を聞いて改めて感じたところですよ。

もう一泊していただいて、陸前高田の方の防災教育特別研修も組みました。

これにも 68 人に参加していただき、陸前高田市のお話や現地ガイドの説明、最後は防災の講演ということで、岩手大学の森本准教授の話も、釜石東中学校の時の話を中心に話をさせていただきました。

その時の釜石東中学校の校長は伊藤委員でありましたので、伊藤委員さんから前に聞いておりましたが、リアルなお話を森本准教授からいただいたところでもあります。

大会も終わりましたが、色んなところの市の教育長さん方から、お褒めの言葉をいただきました。

社交辞令だけではなく、印象に残る感動的な大会でしたということで、お話をいただきました。

水戸市の教育長さんからは大会が終わった後、お手紙をいただき、その中でも触れていましたし、教育部長は群馬県の伊勢崎市に教育民生常任委員会の視察研修に行った際、そこでも教育長さんから、非常に素晴らしい大会だったということで、褒めていただいたそうでもあります。一関という決して大きくない町で、その中での大会としては、大成功だったのではないかなというふうに思います。

前は奈良でしたし、その前は徳島、厚木、鹿児島、旭川ということで、30 万、40 万、50 万規模の都市で開催しておりましたので、そういう中では、一関らしさを出すそういう大会になってよかったなというふうに思っております。

次期は富山市で行われる予定であります。

大会の前日、富山の教育長さんは、午前 10 時に出て、一関には午後 2 時に着いたそうです。大宮で乗り換えが 10 分くらいの間で上手く来たのもありますが、北陸とこの一関、岩手が 4 時間で行けるという時代になったのだなど、改めて感じたところですよ。

全国の教育長さん方から、岩手がこんなに近いと思わなかったという声を何人かから聞きました。

東京から 2 時間で来られるというのは、ほんとに近いというイメージのようです。

文部科学省の講師の方も終わると、その日に帰りました。

大概泊まるのですが、仕事が次の日できるということで、帰られましたけども、一関はそういう地理的な部分でも全国に行きやすい場所だと、改めて感じたところでもあります。全国の 802 の自治体から、500 人くらいの教育長が来て、一関を知ってもらいたい機会

になったなど。

西の方の教育長さん達は、そもそも一関がどこにあるかわからないと、岩手県にあるのかどうかもわからなかった方々が多いと思うのですが、来ていただいて、そういう点ではありがたかったなと思いました。

職員にもほんとに、自らいろんなことを考えて動いていただきましたので、ほんとに素晴らしい大会になったなというふうに思っております。

以上、大会については以上で報告を終わります。

何かご質問あれば、よろしいですか。

事務局から何か、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○教育長 それでは、報告の括弧2は以上としたいと思います。

その他(1) 平成30年度学校教育行政の重点について (学力向上)

○教育長 4番に移ります。

その他として、教育行政の重点ということで、毎月行っている部分ではありますが、今回は学力向上について、学校教育行政の重点の一つとして、学力向上について、ご説明願います。

○学校教育課長 それでは、平成30年度学校教育行政の重点の二つ目、学力向上についてご説明いたします。

資料3をご覧ください。

(説明)

○教育長 今回、学力向上についてのお話でありましたが、質問等ありましたら、よろしくお願ひします。

○千葉委員 わかる授業づくりに向けた取組み、学力向上を目指した検証改善サイクルの確立、構造的な板書、テンポの良い授業というのを各学校に求めている訳ですよ。

求めた結果、検証といいますか、どれくらい各学校でできたのかというような、自己検証の報告のようなものは教育委員会に上がってくるのかどうか。

きちんとできたと学校で感じているところが、次の年の学力テスト等でどういう成果で、きちんとできなかつたというところが、どういう結果に終わったかというものは出せないものですかね。

○学校教育課長 学校からは当然、学力向上に向けた取組み予定と結果とかは出してもらっています。

ただ、この項目に沿っては出してないので、その報告の中でこれらに触れたものは出し

ていると思います。

実は、毎回、数値結果は出ているのですが、どれががんばったから、どう上がったかという因果関係を出すのは、なかなか難しいところがありまして、教育委員会としても市による配置がありまして、学習支援員を配置してなかったかとか当然結果を求められているので、我々でもこれじゃないかとか、予想して数値的には上がったのではないかと言っていますが、厳密に言えば、色んな要素が入ってきますので、どれをやったから、どれが上がったというのは、なかなか難しいところがある状況です。

○千葉委員 わかりました。

○伊藤委員 小学校でこれだけの数字が出ているわけですし、中学校にきてガタッと下がってしまう。

いつも現場でそういうふう感じておりましたが、私が高校の評議委員をやった時に、高校でもそうなのです。

家庭学習について、スマホの影響かどうか、一人が家庭で学習する時間という1時間にも満たない高校生がけっこういるわけです。

それで、上級学校に行きたいと思う学生に関しては、2時間、3時間勉強しているのですが、そうでない場合、割と多いのですが、家庭学習を1時間もしないような状況で、当時の学校の校長先生から非常に学力の遅滞というか、そこが、やはり1番の根源だなというふうなお話をしていました。

質問ですが、例えば先ほど行われている、幼、小、中、高、大の連携がありましたけれども、こういう学力向上に関する話題、あるいは学力向上の課題について、お話し合いはなされているのでしょうか。

○学校教育課長 幼、小、中、高、大の中では、学力向上については、あまり話し合われてないと思います。

キャリア教育やメディアについては話しますが、学力については、幼、小、中、高で捉え方が様々であり、話し合わなければいけない要素だと思うのですが、まだ中心になって話し合うということはありません。

○伊藤委員 一時期から比べれば、一関市は10校の高等学校があります。

特別支援の高等学校含めて10校ありますが、昔、例えば定員オーバーしているので、危機感を持って勉強しているのが割とあったのですが、今は生徒数が激減して、定員割れをしているので、危機感を持たなくても何処かの学校に入れるという安易なものが地域によって親御さんにもあると、そういうことを感じるのですが、中学生の子どもたちの学習に対する姿勢が意欲も含めて低下しているのかなという感じもする。

その辺りは、どうでしょうか。

○**学校教育課長** 意欲も含め、先生方の授業を通して、子どもたちに意欲づけをしながら、力を付けてやるというのが、次の課題かなと思っております。

○**教育長** その他、いかがでしょうか。

○**佐藤委員** 中学校になりますと部活動が入ってきて、小学校でもスポーツ少年団等の課外活動している子もいるとは思いますが、部活動を一生懸命やることによって、それが学力にどう影響しているか、その辺りの傾向みたいなのは把握されているのかどうか。

構造的な板書やテンポよい授業を取組むようにした場合、先生方に板書や授業を整えていくための時間的な余裕の配慮が今まで以上に必要になるのかなと思われませんが、課外活動に先生方も顧問として取組んだりしますと、先生方の時間的な確保も必要になるのではないかと思うのです。

以前の会議でもありました働き方の改善や、そういったものとも連携するのではないかと思ってお聞きしたところです。

今の印象が合っているかどうかというのもわからないのですが、中学校になって小学校からの大きな活動の変化とそれに対応する先生方の時間的な部分、その辺りがもしかしたら影響があるのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

○**学校教育課長** 二点について、一つ目、部活と学習の相関関係ですが、教員の経験値としては、部活を一生懸命する子は、学力が高かったりするのですが、ハッキリした数値はないと思われま。

部活が忙しくて、勉強がおろそかになるとか、部活をしないから、学力が高いということは一概には言えず、ちょっとその関係はハッキリとはわからないという感じです。

二つ目については、私的に言うと、構造的板書とテンポよい授業は、教員として当然であります。厳しいことを言うと、これをしてこなかったことが、働き方改革とはイコールではなく、働き方改革をしながら十分やれると思います。

特に中学校は、同じ教科を複数の学級で教えるので、ノートをしっかり作っておけば対応できますので、他市町村の中学校の授業の様子を見たのですが、きちっとした板書とテンポよい授業をしていますので、私は働き方改革に反する様な形にはならないと思っています。

十分、意識改革をもってやればできると思います。

○**佐藤委員** ありがとうございます。

○**教育長** どうでしょう。

後はよろしいですか。

ちなみに、一関の学力、三つのテストで見えていますけども、過去 10 年くらいで見ると去年、一昨年辺りは、上昇傾向なのです。

経年変化で見ていくと、上昇傾向で特に小学校が過去 10 年しかわからないですけど、ここ 1、2 年が 1 番高いと思います。

それが中学校に行くので中学校も高くなりそうなのですが、簡単にはいかない部分があるのは事実であります。

中学校も上昇傾向ではありますけども、県の平均点より僅かに低い実態でありますので、今後の努力が必要なのかなと思っております。

全国と比べて、比較の問題なので、全国と比べて中学校になると落ちるのは、岩手県全部なのです。

一関だけではなくて、岩手県全体がそういう傾向であります。

全国で見ると、中学校になると相対的に高くなるのは、全国の半分の県は高くなっているのです。半分の県は下がっている。

その違いというのは、どういうところにあるのかなというのは、見ていかなくちゃいけないのではないかなというふうに思います。

岩手県は、ほとんどの市町村が中学校になると下がります。

全国と比較して下がる。

部活の問題もあるかもしれませんし、中学校の授業の在り方の問題あるかもしれません。

そもそも高校入試が楽すぎるというのが原因だという人もいます。

それから、中学校に行くと子どもが勉強から目がそれて、親もあまり勉強には目がいかないと、勉強よりも別のことちゃんとやれという部分が原因だという人もいまして、様々な要因が絡んでいるのではないかなというふうには思います。

全県的にそれを課題ととらえて、県教委でも力を入れてやってきていますし、市としてもやってきているので、中学校の下がり方は前よりは、全国との比較は下がっていますが、比較は緩やかになってきているのは事実であります。

今後ともよく見ていきたいなど、学年によっても上がり下がりがありますので、ある程度の 5 年くらいの単位で見ていくことも大事なのではないかなと思っております。

その他、意見等よろしいですか。

それでは、今日の重点項目についての学力向上は、以上で終わります。

(「はい」の声あり)

では、4 番のその他まで終わりましたが、皆さん方から何か。

よろしいですか。

私から、7 月の山形での研修会が終わってから、去年も 2 日目の午後、秋田の学校を回って見ましたけども、もし施設や学校で回って見たいところがあれば、お話しいただけ

ればなと思っております。

よろしく申し上げます。

では、以上をもちまして、第 180 回一関市教育委員会定例会を終わります。

ありがとうございました。